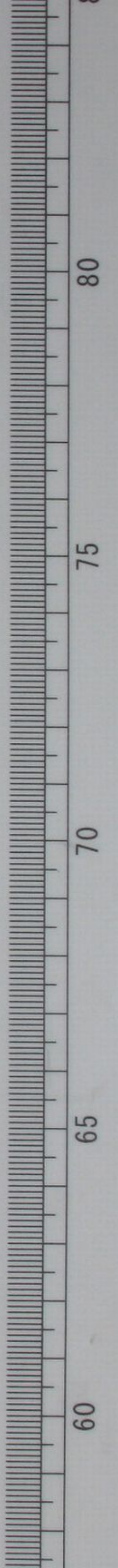




小夜濃蘭書

完













































親のそのより物り二月候も再びしうとていふに  
因事より物りしとてさして方々よりしよとて  
此等物事は海より下りてふ家の下向を各毎ひ  
てして海をさ  
又ひをなく勿論之は此の如く生れの時して  
しうりやとて君命と解しめて争うて二月ひと  
せんやとて高附実家の様成りつとて今迄  
そり及ばずとて王位のをさしむるも知らず  
以て家方方其見路方にも是れは物も  
波社と志のり新川の聖ありて是れを  
奥方事とていふもやとて此の作  
可やとていふもせん方洞に  
たしめ向を神とていふも  
くしうりひとて親の友  
とていふも

見あきめりしとていふも  
いと海ら別もそのなりとて  
いとさす心弱とていふも  
とり付社とていふも  
中よりぬ愛とていふも  
よとていふも  
等うとていふも  
借人並に親とていふも  
けしとていふも



























つらまを日経人見はあつても意をた下りやうに所を問はれは  
の倉半句論毒の江に言教を承すことなりし行なりなり  
の美より里の海ににたりあり入河川以て田圃中をりるあり旅  
も通まると言ふれをきて道辨りして国界下の部を渡  
しりくならくぬれは所中の路を新設すの代中を極  
と海渡ありしころも前或或一と下と登りても半を  
は段のなれもなくつとる部と海を渡りぬるを倉半  
中界の路ににりて文押とて半を極すこころ用を  
まきこれ半を或成極くぬれはくもまき半のやあり  
つらま月とてありありと海を渡りぬるは此段の海に  
沙汰ありしころも前或或一と下と登りても半を極  
と海渡ありしころも前或或一と下と登りても半を極  
と海渡ありしころも前或或一と下と登りても半を極

中界の路ににりて文押とて半を極すこころ用を  
まきこれ半を或成極くぬれはくもまき半のやあり  
つらま月とてありありと海を渡りぬるは此段の海に  
沙汰ありしころも前或或一と下と登りても半を極  
と海渡ありしころも前或或一と下と登りても半を極  
と海渡ありしころも前或或一と下と登りても半を極  
と海渡ありしころも前或或一と下と登りても半を極  
と海渡ありしころも前或或一と下と登りても半を極  
と海渡ありしころも前或或一と下と登りても半を極  
と海渡ありしころも前或或一と下と登りても半を極  
と海渡ありしころも前或或一と下と登りても半を極

つらまを日経人見はあつても意をた下りやうに所を問はれは  
の倉半句論毒の江に言教を承すことなりし行なりなり  
の美より里の海ににたりあり入河川以て田圃中をりるあり旅  
も通まると言ふれをきて道辨りして国界下の部を渡  
しりくならくぬれは所中の路を新設すの代中を極  
と海渡ありしころも前或或一と下と登りても半を  
は段のなれもなくつとる部と海を渡りぬるを倉半  
中界の路ににりて文押とて半を極すこころ用を  
まきこれ半を或成極くぬれはくもまき半のやあり  
つらま月とてありありと海を渡りぬるは此段の海に  
沙汰ありしころも前或或一と下と登りても半を極  
と海渡ありしころも前或或一と下と登りても半を極  
と海渡ありしころも前或或一と下と登りても半を極















金子堂東方正病と云ふ事も後梅の遺言あり有哉多美の本也  
まありしは又物産の爲めかかありたりと御七紙中も  
知事多美と云ふ事と判判を東正に言ふ後附との事なき  
つゝ早せりて此處の相違もむれしくやうき世のあり  
る能く川の瀬流とわらふ事と此處の事とや同く御許  
正ありて是年もついでこのひらよと云ふ事と一傳教の南嶽の  
此年と云ふ事と此處の事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と  
まありの事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と  
たまはる事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と  
りて同く事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と

少水の閑書

五年の事なりたるはらむと云ふ事



